

平成29年度 輪光福祉社会事業報告書

平成30年3月31日
社会福祉法人輪光福祉会

平成29年度は、景気回復の影響と昨今のマスコミ等による福祉に対するマイナスな報道等の影響を受け、全国的な福祉人材不足が続く中、当法人でも人材の確保が難しく、職員のモチベーションアップの為に内・外部研修の積極的な参加と内容の充実、OJTの見直しと実行を行い、福祉人としてのモラルの形成と技術、知識の底上げを計ってきました。また、社会福祉法人制度改革を中心とした社会福祉法等の一部を改正する法律案の成立にともなう体制を作り、新体制での理事会開催を四半期（3ヶ月に1回）による活動報告等を行い、更に高い公益性を踏まえた経営実践や安定的かつ質の高い福祉サービスの提供並びに地域社会の向上に貢献する為の研修参加や実践に伴う事例発表を各施設で行いました。この新しい体制での法人運営の確立に努めていきましたが、事業実績としては過去に無い、二期続けてのマイナス業績になってしまいました。この事の原因としては、下記の輪光無量寿園各部所でも説明していますが、入院や地域の事業所の増や対象利用等の減少が原因としてあげられる事や本年度から始まった介護予防・日常生活支援総合事業（地域包括ケアシステム）の取組みも、若干の原因とも言えます。平成30年度の医療と介護報酬の同時改定による事前対応策を考え、少しずつでも二期前の状況になっていく様に職員一丸となって頑張っていく所存です。

輪光無量寿園は、人材確保が厳しい現状の中、短期入所事業の利用減や入所の入院増が8月～11月迄の間に648人の増になり過去に無い稼働減が発生し、在宅事業も地域の事業所が増え、介護事業として二期連続の大幅な減収になりました。保育園は、地域行事への積極的参加やPR活動にて園児数増加につとめ、学童保育等の保育サービス充実も図りました。また、園舎内外や遊具、学童保育等利用の為の建物の修繕・整備を行い、園児達が安心安全に過ごせる環境作りに努めました。清寿園は、高齢化と重度化に伴う障害や認知症、更には精神疾患を持つご利用者様が増加しており、従来の見守り支援に留まらず、介護保険制度や障害者総合支援法に基づくサービスの提供を行う必要性が高まっている現状で、虐待等による緊急ショート希望が増加しております。又、安心安全なサービスを充実させる為の改修や備品等の入れ替えを行い、ご利用者様の満足へ繋げる事が出来、指定管理者としての役割を果たして参ります。全体を通しての課題は、常に人材確保が難しく、多様な取組みを行いながら基準までに達してきました。平成29年度から始まった介護予防・日常生活支援総合事業における居宅・通所・訪問事業も少しずつ浸透し、新しい制度の取組みの対応に努めていきました。

今後においては、平成30年度の介護報酬改定へ迅速な対応も必要です。

次に各事業実施状況について説明します。

保育部門は、あたたかい心を添えたまことの保育の更なる充実を図り、輪光にしかできない保育を提供するとともに、保護者参加型行事等の内容の充実、交通安全運動出発式、Soogo

od FM 1周年記念イベント、ナンチク夏祭り、岩南小学校学習発表会等の地域行事への積極的な参加やSo goodFM加盟によるPR活動、一時保育や学童保育等の保育サービス充実を図りました。保育実績は、延べ540名で月平均44人(うち、乳児保育延べ67人、月平均6人)、学童保育実人数10人で延べ1542人、延長保育実人数24人で延べ653人、一時保育実人数2人で延べ22人の利用がありました。又、平成29年3月31日改正・平成30年4月から適用される新保育所保育指針についての研修会や子どもの発達に関する研修会等、各種研修会への参加で学びや理解を深め職員の資質向上や保育の質の向上を図りました。園舎外壁塗装や厨房・トイレ修繕、固定遊具の修繕・塗装、子どもたちの運動機能の発達を促すサーキットプレイジムの購入等で園舎内外の環境整備に努めました。学童保育等利用の為購入した建物も、外壁修繕・屋根や玄関の文字入れ・消火器や誘導灯の設置・外構工事(舗装・フェンス設置)等も行い、利用開始に向けての準備も進めました。

特養部門においては、上記でも述べましたが、平成28年度からのあおりで介護職の離職に伴う人員配置の減に伴う派遣等の利用や人材就職準備金・紹介料等も増えた事やショートステイ利用調整等を行った事・中盤においては、入院が過去に無い増(648人)や入所調整がきちんに行えなかった事が原因で大幅な収入減になりました。平成30年1月頃からは、入院も少しずつ減り、落ち着き、1月後半からはショート利用稼働も上がり、平成30年度4月新卒採用も介護職並びに中途採用や調理含む9名が入職し、3月末迄に派遣等の減員調整も行い、配置の解消が来ています。しかしながら、人材育成不足の影響でサービスの質の向上を目指す事が出来ず、ご利用して頂く方々にご迷惑をかける事も多々見られましたが、平成29年度から取り組んだ自施設での研修会実施で少しずつではありますが、報告の大切さや利用者処遇対応(介護技術)が重要視され、サービスの質の改善に繋がっています。又、利用者処遇では、ユニットで外出(花見やドライブ)の行事等を取り入れたり、ひだまり棟においても利用者とお過ごすための遠足や忘年会なども、少しずつ実践でき、満足頂けるサービスが実践出来ています。施設全体では毎年の行事である納涼祭やビアガーデン等を行いながら、少しでも家族の皆様とのふれあいや地域の皆様へ来て頂くことを念頭に置き、開かれた施設づくりを行い、個々のサービスへの提供として“個々の誕生会や故郷訪問”を実施し、輪光無量寿園の看取りとして嘱託医の指示のもと家族との関わりを持ち、数名の方に施設での最期のサービスの提供が出来ました。更に基本的な事ではありますが、身体拘束廃止の取り組みやオムツゼロに向けてのサービスの提供としてテーナの活用と脳活性とコミュニケーションのツールとしてのくもん学習の取り組み、ユニットケアでの24時間シートの活用で、個別援助に力をいれました。又、ひだまり棟では、ベッドの入替を20台と個別に応じたリクライニングの入替。ユニットでは、憩いのスペースづくりの開閉式テントを設置。又、特養全体で使用する大型乾燥機が故障したので入替を行い、ご利用者へ満足頂けるサービス提供へ繋げていきました。実績としては、1日平均利用者は、多床50人に対し47.0人・ユニット40人に対し38.8人で、ご利用者様の高齢化、重度化により年間入院実人数106人で延べ入院日数1,696日でした。退所者は18名(うち死者15名・長期入院者1名・施設退所1名・在宅1名)で昨年より7名減でした。ショートステイは9人定員に対し、月平均6.3人でした。因みに障害者は実人員2名で年間156日利用がありました。

養護部門は、自立支援を積極的に実践して、個別プランに沿った援助の実践と平均介護度の引き下げを念頭にくもん学習やヨガ体操・みんなの体操・須坂健康体操・貯筋運動を実施し、ご利用者様全員のADL向上の施設づくりと個々の生きがいづくりに努めて参りました。

た。自立支援を目指す一方で転倒事故が多発してヒヤリーハット報告書35件うち5件の骨折事故が発生したことは深く反省しなければなりません。再度しっかりと検証して再発防止に努めて参ります。平成29年度入所状況では新規入所が11名・退所者9名(うち死亡・長期入院・特養等への移し替えが各3名)で年間平均在籍者は49名でした。平均年齢83.7歳・平均介護度1.39・最高齢者102歳夜間のオムツ使用者2名車イス使用者8名という状況でした。因みに自立13名要支援9名(うち要支援1が1名・要支援2が8名)・要介護28名(うち要介護1が17名・要介護2が7名・要介護3が4名)という現状です。外部サービスについては通所介護24名・通所リハ6名・就労支援2名・訪問入浴介護9名・訪問看護2名の利用があり自立に向けて取り組みました。さらにショートステイが9名67日間の利用がありました。又、設備環境面では避難誘導灯の取り替え、厨房空調機修理、高圧受電設備収納ボックス塗装工事、トイレ入り口木製建具の改修を行いました。さらに市が転倒防止策として床の張替えや外部不審者対策で監視カメラの設置をして頂きました。老朽化した防災用ヘッドライト他、照明器具ガス給湯器、全館消毒用手動噴霧器、吸引器、ミシン、カメラは新調致しました。尚、AED、パソコン5台、複合機はリース契約で入れ替えました。地域貢献の活動として、地域の公民館や民生委員との意見交換会や地域のサロン等に出向いての交流、地区高齢者に対する在宅生活支援及び入所相談援助を行って来ました。最後に養護老人ホームにおける状況変化にはしっかりと向き合い益々多様化するご利用者の要望には精一杯の対応を心がけ安心・安全な日々の生活を提供できるよう指定管理者としての役割を果たして参ります。

居宅部門は、他事業所と連携し地域に於ける事業所として輪光の存在を確立しながら平成29年4月からスタートした介護予防・日常生活支援総合事業の対応を行いましたが、地域との関わりが薄い現状で厳しい稼働の状況になりました。原因としては、長期の入院や入所などによる対応(施設入所:10名 死亡・中止:11名)が多く、新規があっても増えない現状になっています。また、サービスの充実を図る為に行政、各事業所、病院、民生委員との連携を密にしながら日々業務に取り組んできました。配置人員2人とし実績として要介護平均37.8人・予防平均9.58人の実績でした。今後新規ご利用者様獲得に向けて毎月の居宅新聞の配布とサービス事業所との連携を図りご利用者の皆様が在宅での生活がより長く継続出来る様にお手伝いさせていただきます。

通所介護は、1日平均16.9人(うち予防給付2.4人)・保険外0.3人で、前年対比としての稼働は上がり、大幅な収入減になりました。原因としては、地域に小規模事業所等が多くなり、自事業所の居宅の稼働(入院や入所等)がおちた事等があげられます。この対策としては、以前から続けている事業所訪問を定期的に正職を中心に訪問していますが、なかなか伸び悩んでいる状況ですが継続していきます。又、サービスの充実という事では、昨年より作業療法士や言語聴覚士といった専門職を配置し、機能訓練の充実を図り、ご利用者様の在宅生活の維持向上に繋げられるように生活状況に合わせた取り組みを行って来ました。平成29年度により開始された日常生活支援総合事業については、地域性があつたりしての短期集中においての利用等が無いという事もありましたが少しずつ馴染んで来ています。平成30年度の報酬改訂等がありますので、更に厳しい年にもなりますが、一人でも多くご利用して頂く為にご利用者の獲得に繋げるために企画立案をし、行動に移していきます。

訪問介護は、年間利用回数3,861件(内訳:介護1,987件・予防460件・総合事業317件・障害支援781件・保険外316件)の事業所全員が介護福祉士で、5人体制(外1人が療養中で、H30年3月に登録ヘルパーとして1人増出来ています。)で取り組みました。障害支援のご利用

者様も中盤から開始になり、少しずつではありますが新規利用者も増え改善傾向になってきています。保険外のご利用は、事業所独自のサービスとして定着してきました。平成30年度も、前年同様に個々のスキルアップを目指して事業所内での勉強会を毎月実施し、質の高い支援に繋げ、ご利用者の在宅生活を支えてまいります。

障害事業は、グループホームと指定特定相談支援事業が地域や学校・行政等においても、連携が図れるようになりました。グループホームは、入所定員5名が平成29年度の実績稼働として平均月5名(98%)になっています。又、全員が当施設での就労も継続でき、私生活での若干の問題はあるものの、少しずつ調理や掃除等も出来るようになっていきます。又、今年度は近隣の土地・建物購入を行い、改修しての増床計画(5名)をし、平成30年4月1日の“あそか”開所が出来るようになり、2ヶ所で10名の定員の事業展開になりました。車両整備も日本財団から助成を受けて軽自動車の購入をしました。今後においては自事業所での就労だけでなく、近隣への就労サポートにも繋げていきます。又、相談支援事業は、地域の運営会議等に参加して、運営においても安定し、平成29年度は月平均12名の計画策定とモニタリングを含む実績になりました。今後も、地域の事業所や行政と連携をはかり、事業の安定に繋げていきます。

保育・養護事業・介護保険事業・障害事業では、利用者の確保や経営効率のアップの為の地域密着という事で、つながりを重視し、各イベントの開催や参加を行いました。保育園においては、新しく購入した建物を放課後健全育成事業の活用やその他の育成に役立てていきます。養護の事業では自立に向けた機能訓練の実施や地域貢献として利用者と一緒に施設外の空き缶拾いや地域サロンへの参加などを継続して行います。又、平成30年度も、輪光無量寿園の施設サービスでは、早めの入所受入や入院を増やさない取り組みや多職種共同の看取りの実施、口腔ケア、介護技術の向上に努め、入所指針に沿っての施設入所調整を行い、各事業所との連携を強化し、定期的に入所判定委員会を確実に実施し、収入減にならない対応をしていきます。ショートステイ利用者の外部受入を最優先に実施する事で稼働率確保を行います。在宅サービスにおいては、地域ニーズを把握し、ご利用者様獲得のため、地域へ出向き、輪光独自のサービス提供、機能訓練やレクリエーションの充実に取り組み、その実施状況を園だよりや各在宅の新聞に掲載し、定期的に民生委員の方や地域に配布します。又、地域貢献の必要性をみいだす為に、サロンの定期的な訪問や地域のサロン開設のサポートや地域ケア会議への参加の呼びかけで地域との関係作りを行い、一人でも多くの方々に輪光のサービスを利用する機会を増やしていきます。

最後に、地域との関わりを持つために毎年2回実施している輪光介護セミナーを地域の皆様のニーズに沿ったものへと工夫を行っていき、ボランティアグループGENKIの活動を地域の方に更に理解して頂くために数多く地域に出向き、アピールしていきながら“地域の空き缶拾いや近隣小学校での立哨等”又、“ペットボトルのふたやプルタブの回収”を継続していきます。